

1 単元名 「長く続いた戦争と人々の暮らし」

2 単元について

本単元は、学習指導要領第6学年の内容(1)のケ「日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること」の前半部分を受けて設定した。本単元では、必要な資料を収集したり、選択したり、吟味したりしてアジア・太平洋に広がっていった戦争について調べ、戦争の広がる経緯や戦時中の国民生活の様子、国内外の被害について理解することをねらいとしている。

前単元では、日清・日露戦争に勝利したこと、産業や科学が発展したこと、不平等条約の改正に成功したことなどから、日本の国力の充実と国際的地位の向上が図られたことを学習してきた。本単元では、それにより、世界に勢力を伸ばした日本が軍国主義の道を進み、国全体が戦時体制に移行したことや、近隣諸国に大きな損害を与えたこと、軍人だけでなく民間人も多くの被害を受けたことを学習する。

最近では、日本の近隣国が弾道ミサイルを発射したり、核実験を行ったりしており、それに伴って、合同軍事演習を行う国もあり、日本でも緊張が高まっている。そのような世界情勢にもかかわらず、「悲しくなるから」「怖いから」と戦争について考えたくないと思っている児童や、戦争は過去のことであり、自分とは関わりのないことだと思っている児童もいる。また、太平洋戦争時の被害や国民の生活についても、半数以上が知らないと回答しており、知っている児童も「多くの人が亡くなった」「原爆を落とされた」などとどまり、戦争が広がった経緯や国民の生活、国内外の被害について詳しく理解していない。戦争が国民生活に大きな影響を及ぼしたこと、国民や近隣諸国に甚大な被害をもたらしたことを理解するためには、当時の人々の気持ちを考えながら、戦争を身近なものとして捉えさせる必要がある。ここでは、空間的に身近なもの、意識の面で身近なものを使い、より戦争を身近なものとして捉えさせていきたい。児童は、これまでの学習の中で、単一の資料から事実や増減の変化について読み取る力はついてきているが、複数の資料を関連付けて考えたり、歴史事象の背景に目を向けて考えたりするところに課題がある。歴史学習を事実の確認で終わらせないために、出来事背景にある原因や理由についても考えられるようにしていきたい。

そこで本単元では、児童が身近に感じられる教材を使い学習を進めていく。空間的に身近なものとして捉えさせるために、「児童の住む千葉市も空襲被害に遭い、多くの市民が犠牲になったこと」を扱っていく。また、意識の面で身近なものとして捉えさせるために、「自分たちと同じ年代の子どもたちが戦時中にどのような生活をしていたのか」を扱っていく。当時の教科書の写真や疎開先での食事の献立表などの資料から読み取る活動を通して、衣・食・住が制限され、苦しい生活をしてきたことを捉えさせたい。また、XチャートやYチャート、クラゲチャートなどの思考ツールを用い、読み取った内容について、関連付けて考えたり、友達と情報交換したり、整理したりする場面を設ける。そうすることで、自分だけでは得られなかった情報を獲得したり、自分と同じ考えを聞くことにより自信をつけたり、違う考えを知ることによって事象を多面的に捉えたりすることができる。それらの活動により戦争について起きたことの実事だけでなく、その裏にある背景や要因についても

捉えられるようになっていきたい。そして、戦争のきっかけやその背景、生活の様子や、国内外への被害を理解することで、悲しいから、怖いからと戦争から目を背けたり、過去のことだと考えたりするのではなく、二度と戦争を起こしてはいけない、この学習で学んだことを次世代へとしっかりと受け継ぎたい、世界が平和になるようにしていきたいと考えられるような児童を育てていきたい。

### 3 児童の実態 (男子12人 女子12人 全体24人 10月13日時点)

#### 【戦争についての実態】

①戦争についてどう思いますか。

絶対にダメ	なるべくしない方がよい	理由があるならよい	よい
21人 (87%)	3人 (13%)	0人 (0%)	0人 (0%)

②それはなぜですか。

- ・人が死ぬから (21人)    ・安全な方がいい (1人)
- ・話し合いで解決できないのは国の恥 (1人)
- ・できればしない方がよいが、国を守るためなら (1人)

③過去の戦争や現在起こっている戦争に関心はありますか。

ある	どちらかというところ	あまりない	ない
5人 (21%)	10人 (42%)	2人 (8%)	7人 (29%)

- 【興味がある理由】
- ・何があったか知りたい (6人)    ・今後のためになりそう (6人)
  - ・よく耳にするから (2人)    ・日本にも影響がありそう (1人)

- 【興味がない理由】
- ・悲しくなる、こわくなるから考えたくない (8人)
  - ・昔のことだから (1人)

④太平洋戦争で日本ではどのような被害があったか知っていますか。

知っている	知らない
10人 (42%)	14人 (58%)

- 【知っている内容】
- ・原爆を落とされた (7人)    ・たくさんの方が亡くなった (3人)
  - ・空襲があった (2人)    ・沖縄を占領された (1人)

⑤太平洋戦争で日本は外国にどのような被害を与えたことを知っていますか。

知っている	知らない
6人 (25%)	18人 (75%)

- 【知っている内容】
- ・人を殺した (3人)    ・中国や朝鮮の占領 (2人)
  - ・爆弾を落とした (1人)    ・建物を壊した (1人)
  - ・貿易できなくなった (1人)

⑥太平洋戦争中、日本の小学生を含む国民がどのような生活をしていたか知っていますか。

知っている	知らない
12人(50%)	12人(50%)

【知っている内容】 ・食料難(6人) ・防空壕に隠れた(3人) ・疎開(2人)  
 ・学徒出陣(2人) ・配給(2人) ・徴兵(1人)

⑦太平洋戦争で、千葉市は直接被害を受けたと思いますか。

思う	思わない
15人(63%)	9人(37%)

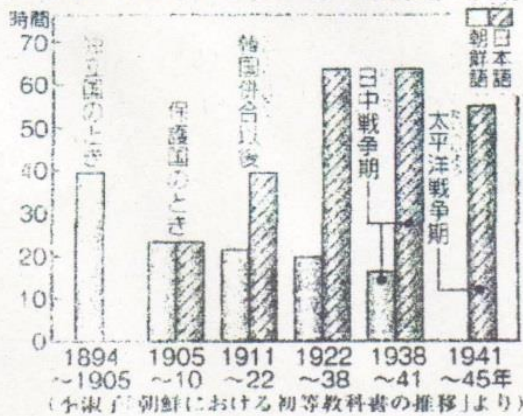
⑧直接被害を受けたと思う人は、どのような被害があったと思いますか。

- ・多くの人が無くなったのではないか(10人)
- ・焼け野原になった(3人) ・多くの家が燃えた(2人)

【資料の読み取りについての実態】

⑨次の「韓国の小学校での全学年合計の授業時間数」からどのようなことがわかりますか。

小学校での全学年合計の授業時間数(1週間)



朝鮮語・日本語の増減を比較して記述	朝鮮語・日本語のどちらかの増減について記述	韓国なのに日本語を学習していることを記述	ある年代からわかる事実のみを記述	誤答・無回答
6人(25%)	6人(25%)	2人(8%)	4人(17%)	6人(25%)

⑩次の「ポーツマス条約」と「韓国の小学校での全学年合計の授業時間数」からどのようなことが言えますか。

---ポーツマス条約--- (1905年)

○ロシアは、朝鮮(韓国)における日本の支配権を認める。

○ロシアは、南満州の鉄道の権益を日本にゆずる。

○ロシアは、樺太(サハリン)の南半分を日本にゆずる。

日本が朝鮮の支配権を認められたことと、日本語の授業時間数が増えたことを関連付けて記述	左記以外の内容を記述、または無回答
4人(17%)	20人(83%)

本学級の児童は、社会科の学習に興味がある児童が7割で、特に男子が歴史事象を扱ったテレビ番組を見たり、休み時間に伝記を読んだりしている。

実態調査を見てみると、学級の全員が戦争に反対している。その理由として、「人の命を奪うことになるから」と戦争は人々に大きな影響を与えるものであるという認識がある。しかし、人々の命を奪うものであるという認識を持っているにもかかわらず、半数近くの児童が太平洋戦争での日本の被害や当時の国民の生活について知らないことが分かった。また、日本が被害に遭ったことは知っているが、外国に被害を与えたことについては知らない児童もいた。さらに千葉市が空襲被害に遭っていることについては、多分あったのだろうという児童が多く、戦争だから多くの人々が亡くなったのだろうという想像にとどまっていることが分かった。それは、家庭から戦争についての話を聞く機会がほとんど無いからだだろう。資料の読み取りについては、グラフから増減の変化を読み取ったり、2つのグラフを比較して考えたり、ある特徴的な部分に目を向けて読み取ったりできる児童が7割以上を占める中、正確に読み取れない、または、無回答の児童も2割程度いる。さらに、グラフと条文を関連付けて記述する調査では、1割程度の児童しかグラフから読み取れる事象の背景について、条文の内容と関連付けて考えることができなかった。

以上の実態から、児童は戦争が人の命を奪うよくないものだという認識は持っているが、過去に日本で起きた戦争で国内外にどのような被害があったのか、戦時中、国民はどのような生活を送っていたのかについてはあまり理解していないことが分かった。そこで、自分たちと同じ小学生の生活までも戦争一色だったことや、千葉市も空襲によって甚大な被害を受けたことなど千葉市の資料や子どもたちが働いている資料を取り上げることで、興味をもって学習を進められるようにし、戦争のきっかけや戦時中の生活の様子、国内外の被害などについて捉えられるようにしていきたい。また、児童は、複数の資料を関連付けて考えることを苦手としているので、それぞれの資料から読み取れる事実を結び付け、歴史事象の背景にまで迫れるように思考ツールを活用する。そうすることでより活発に話し合い、情報を整理したり、友達と共有したりすることで、単なる事実認識ではなく、その事象の意味についても考え、より深い理解になると考える。そして、戦争について考えたくない目を背けるのではなく、過去の戦争から学び、戦争に対する自分の考えがまとめられるようにしていきたい。

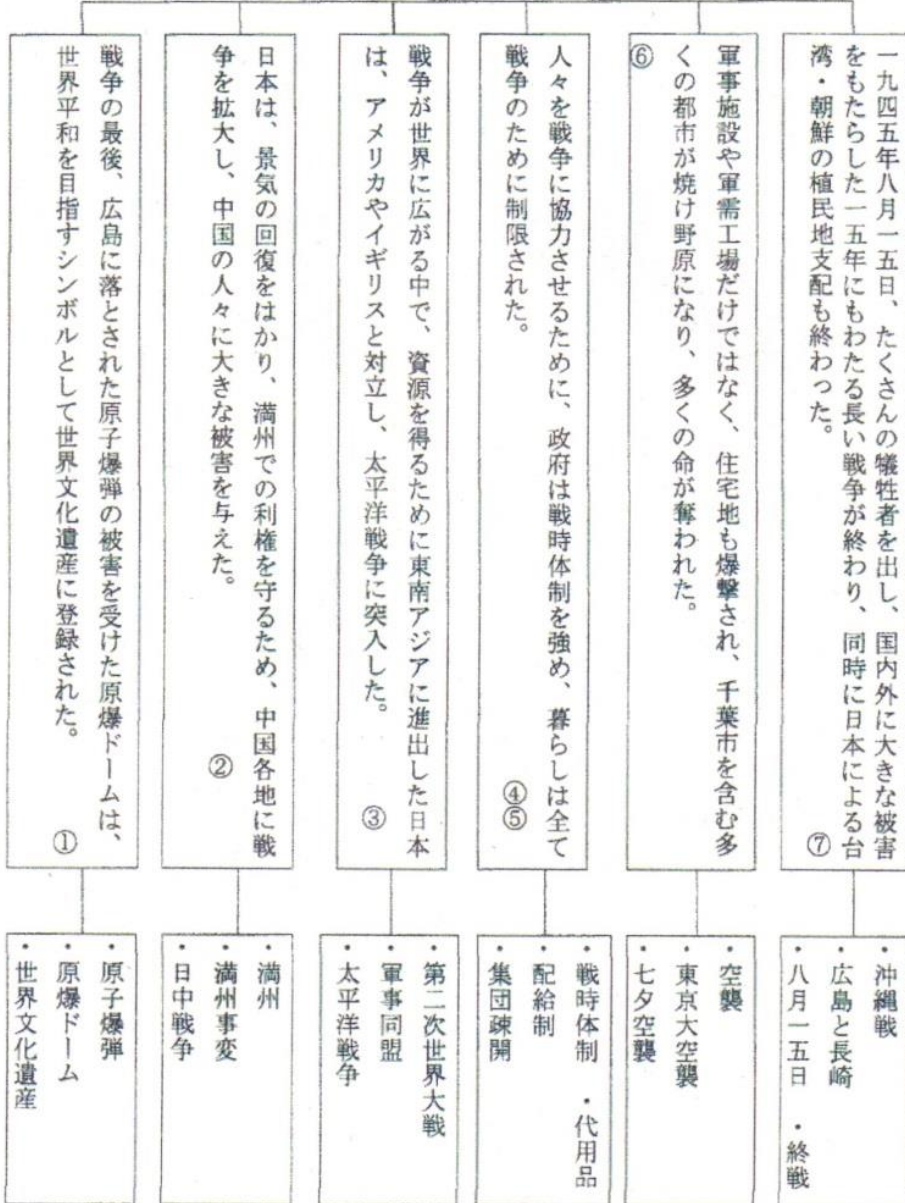
4 知識の構造図

中心概念  
(概念的知識)

長く続いた戦争は、国民生活に大きな影響を及ぼし、国民や  
近隣諸国に大きな被害をもたらした。 ⑧

まとめる

社会的事象(具体的知識)



つかむ

調べる

## 5 単元の目標

- 日中戦争、太平洋戦争、当時の国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産を通して、強化された戦時体制や敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことを理解することができる。
- 日中戦争、太平洋戦争、そのころの国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産から学習問題を見出し、写真や地図、年表、その他の資料を活用して調べたことをまとめるとともに、強化された戦時体制や敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことやそれにかかわる代表的な文化遺産の意味について思考・判断したことを適切に表現することができる。

## 6 単元の評価規準

観点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	○日中戦争、太平洋戦争、当時の国民生活と、それらにかかわる代表的な文化遺産に関心を持ち、進んで調べようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	○日中戦争、太平洋戦争、当時の国民生活と、それらにかかわる代表的な文化遺産について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ○日中戦争、太平洋戦争、当時の国民生活と、それらにかかわる文化遺産について調べたことを比較したり、関連づけたり総合したりして、強化された戦時体制や敗戦によって国民生活が大きな影響を受けたこと、戦場になった地域に大きな被害を与えたことや、それらにかかわる代表的な文化遺産の意味を考え、適切に表現している。
観察・資料活用の技能	○文化財、地図や年表、その他の資料を活用して、日中戦争、太平洋戦争、当時の国民生活とそれらにかかわる代表的な文化遺産について、必要な情報を集めて読み取っている。
社会的事象についての 知識・理解	○戦時体制の強化や敗戦によって国民が大きな被害を受けたこと、戦場になった地域に大きな損害を与えたことを理解している。

## 7 単元の指導計画

観点	時数	主な学習活動と内容
つかむ	1	<p>○原爆被爆前と被爆後の写真を見比べ、気付いたことや考えたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちが焼け野原になり、建物は立っているが原爆ドームもぼろぼろになっている。</li> <li>・なぜ、原爆が落とされたのだろうか。</li> </ul> <p>○日本全国空襲地図を見て、気付いたことや考えたことを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての都道府県が空襲の被害にあっている。</li> <li>・千葉市も空襲被害にあっている。</li> <li>・どのぐらいの犠牲者が出たのだろうか。</li> </ul> <p>○原爆ドームや空襲の話を満州事変から終戦までの年表と関連付けて、戦争や当時の人々の生活について話し合い、学習問題を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、戦争が起きたのかな。</li> <li>・いったいどんな戦争だったのかな。</li> <li>・なぜ、アメリカやイギリスとも戦争することになったのだろうか。</li> <li>・当時の人々はどのような生活をしていたのだろうか。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ長く続いた戦争は起き、外国や日本の人々にどのような影響を与えたのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習問題に対する予想を考え、学習計画を立てる。</li> <li>・領地をめぐる争った。</li> <li>・意見のすれちがいで争った。</li> <li>・決着がつかず、多くの国を巻き込んで長くなった。</li> <li>・たくさんの人が亡くなった。</li> <li>・食料やお金がなく、貧しかった。</li> </ul>
	2	<p>○満州事変、日中戦争を起こした理由や戦争の広がりについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国に勢力をのばして不景気を回復しようという考えが国民の間に広められた。</li> <li>・満州の利益を守らないと日本が減びると主張する人々がいた。</li> <li>・満州から中国各地に戦争が拡大し、中国の人々に大きな被害を与えた。</li> </ul>
調べる	3	<p>○アジアの地図と資料を関連させながら、どのようにして太平洋戦争が広がっていったのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石油などの資源を得るために東南アジアへ軍隊を進めた。</li> <li>・アメリカやイギリスと対立し、さらに戦争が広がっていった。</li> <li>・国民は、政府の言葉や報道を信じ、戦争に協力させられた。</li> </ul>
	4	<p>○当時の生活がわかる写真資料や献立、衣料切符などを使い、戦時中の生活の様子（衣・食・住）について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食料や衣料も少なくなり、配給制となった。</li> <li>・小学生は地方に集団疎開した。</li> </ul>

	5 (本時)	○苦しい生活の中でも戦争に反対しなかった理由について調べる。 ・教科書で戦争のことについて扱われていて、生活の中に溶け込んでいた。 ・戦争に反対すると非国民と言われ、ひどい目にあっていた。 ・学校でも地域でも戦争に反対できない雰囲気だった。 ・国が法律を作り、みんながそれに従わざるを得なかった。
	6	○千葉市は空襲でどのような被害を受けたのか調べる。 ・東京大空襲では、12万人もの死傷者が出た。 ・1944年になると、アメリカ軍が日本の都市を空襲するようになった。 ・軍事施設や工場だけでなく、住宅地も爆撃され、焼け野原になった。 ・千葉市も空襲の被害を受け、子どもを含む1,600人が亡くなった。
	7	○長く続いた戦争がどのようにして終わったのか調べる。 ・沖縄にアメリカ軍が上陸し、民間人を含む12万人の方が亡くなった。 ・広島と長崎に原爆が落とされ、一瞬にして何万もの命が奪われた。 ・8月15日に降伏し、15年にもわたる戦争が終わり、同時に日本による台湾と朝鮮の植民地支配が終わった。
まとめ	8	○学習問題について調べてきたことを整理し、ノートにまとめを書く。  長く続いた戦争は、日本だけでなく、アジアの人々に大きな損害を与え、多くの犠牲者を出した。また、国民生活を貧しく、苦しいものにした。

## 8 市教研社会科研究主題解明のための方策

変貌する未来を切り拓く社会科学習  
～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～

### 主題との関連追究

#### 視点1「深い学び」の基盤となる、学習内容の工夫

(手立て1) 戦争を身近なものとして捉えるための提示素材の工夫

本単元では、より切実に戦争を二度と起こしてはいけないものだと思えるように、児童が戦争を身近なものに感じられる素材を用意し、学習を進めていく。そこで、児童が住んでいる千葉市で実際に起きた空襲被害を受けた場所の地図や空襲の様子がわかる写真を提示する。その中には、児童が行ったことのある場所の地名や写真があることに驚き、興味を持って学習に取り組むことができるだろう。また、同じ年代の子どもたちが工場で働いていたり、訓練を行ったりしている写真資料を提示し、自分たちの生活と比較させことで、子どもの生活も戦争一色になっていたことに気付かせたい。

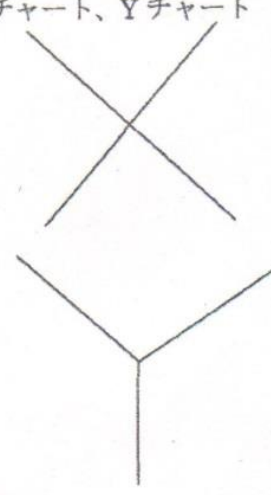
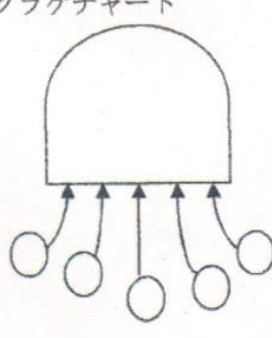
このような身近な素材を提示することで、70年ほど前に千葉市でも多くの被害が出ていたこと、軍人だけではなく、子どもたちも戦争に巻き込まれていたことなどを実感できるだろう。また、戦争で起きたことの事実だけを捉えさせるのではなく、人々の生活を知り、その事象の背景をつかませることで、同じ過ちを繰り返さないためにどうすればよいのかを考えられるだろう。そして、学習を終えたときに、戦争について興味が無かった児童が、平和な社会について考えられるようにし



ていきたい。

(手立て2) 事象同士を関連付ける思考ツールの活用

本学級の児童は、複数の資料を関連付けて考えることを苦手としているので、それぞれの資料から読み取れる事実を結び付け、歴史事象の背景にまで迫れるように、本単元では、児童が資料から読み取った内容について、少人数のグループで情報交換したり、情報を整理したりする場面を設け、自分だけでは得られなかった情報を獲得したり、自分と同じ考えを聞くことにより自信をつけたり、違う考えを知ることによって事象を多面的に捉えたりできるようにしていく。また、単に話をするだけにとどまらず、話し合いながら、思考ツールを活用していく。1つ目として多面的、多角的に捉えることを目的とする X チャートや Y チャート。2つ目として問題事象とその原因について関係付けるクラゲチャート活用する。それらの思考ツール活用し、付箋を貼って動かしたり、関連のあるものを囲ったり、矢印を使って、対立関係を示したり、因果関係を示したりするなどの操作活動を通して、事象同士の相違点に気付いたり、事象の背景についても捉えられるようにしていきたい。

<p><b>Xチャート、Yチャート</b></p>  <p>対象について、多様な視点を設け、多面的な見方ができるようにする思考ツール。本単元では、戦時中の生活を、衣・食・住の3つの視点から調べ、共通して言えることについて考えていく。</p>	<p><b>クラゲチャート</b></p>  <p>クラゲの頭の部分に問題事象を記入し、足の部分に根拠や原因として考えられることを書き出してつなぐことで、問題事象と根拠や原因を関係付けるための思考ツール。</p>
--	---

9 本時の指導 (5/8)

(1) 目標

○戦時中、国民が苦しい生活を我慢していた理由に関心を持ち、意欲的に調べようとする。

(関・意・態)

○人々を戦争に協力させるために、政府は戦時体制を強めていったことを、写真資料と漫画資料を関連付けて読み取ることができる。(技)

(2) 展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
3	1 前時の学習を振り返る。 ・食料が不足し、配給制になった。	○衣食住で当時の生活について調べたことを確認し、全体としてど	前時の資料

3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団疎開が始まり、親元を離れて生活していた。</li> <li>・着るものも、衣料切符で手に入れていた。</li> <li>・衣食住は制限され、苦しい生活を送っていた。</li> </ul> <p>2 戦時中の学級日誌を提示し、前時の既習内容との違いから疑問をもち、学習問題を作る。</p>	<p>のような生活であったかを振り返るように声を掛ける。</p> <p>○学級日誌に「バンザイ」「うれしそうに」などと書いていたことを示すことで、苦しい生活だったのに戦争に反対していないことに疑問をもてるようにする。</p>	学級日誌 「六月一日」
<p>人々は苦しい生活をしていたのに、なぜ戦争に反対しなかったのだろうか。</p>			
5	<p>3 本時の学習問題に対する予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校でそういう教育をしていたのではないか。</li> <li>・家でも戦争に反対してはいけないと言われているのではないか。</li> </ul>	<p>○自分たちと同じ子どもたちであることに目を向けさせ、戦時中の子どもたちの立場に立って予想するよう助言する。</p>	漫画「はだしのゲン」 写真「戦時中の教科書」
7	<p>4 資料から、子どもたちが戦争に反対しないで生活していた理由について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に戦闘機や軍艦の話が出てきている。</li> <li>・学校で外国人みたいな人の顔を貼った人形を木刀でたたいている。</li> <li>・戦争に反対したら、先生に怒られていた。</li> <li>・戦争に反対したら、警察に殴られていた。</li> <li>・家族が戦争に行くのを、喜んでいた。</li> <li>・隣組で監視されていた。</li> </ul>	<p>○資料からわかったことを、付箋に書くよう声を掛ける。その際、学校のことは青、家庭のことは赤の付箋を使い、一目でどちらの内容かわかるようにする。</p> <p>◆戦時中、国民が苦しい生活を我慢していた理由に関心をもち、意欲的に調べようとする。 (関・意・態/付箋)</p>	「竹やり訓練」 「出征」 文字資料 「隣組」 付箋(赤、青)
13	<p>5 個人で調べた内容を持ち寄り、グループでクラゲチャートを使って、反対しなかった理由について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書にも戦闘機が出ていて、社会全</li> </ul>	<p>○調べた事実が反対しなかった理由になるかどうかを話し合い、選別し、クラゲチャートの足の部分に貼っていくよう声をかける。</p>	クラゲチャート

	<p>体が戦争ムードだったから。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争に反対すると、先生に怒られるから。</li> <li>・戦争に反対しているとわかると、処罰されたから。</li> </ul>	<p>その際、同じ内容の付箋を重ねて貼るよう助言し、調べた事実を整理できるようにする</p> <p>◆人々を戦争に協力させるために、政府は戦時体制を強めていったことを、資料と資料を関連付けて読み取っている。</p> <p>(技/クラゲチャート)</p>	
5	<p>6 グループで調べてわかった理由を全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭や学校で戦争に反対できない雰囲気だった。</li> <li>・その裏には、国が何か決まりをつけたのではないか。</li> </ul>	<p>○全体で戦争に反対しなかった理由を確認しながら、「戦争に反対しなかったのか」「戦争に反対できなかったのか」どちらだったのか問いかけ、自分の意志ではなく、そうせざるを得なかったことについても考えられるようにする。</p>	
4	<p>7 国家総動員法について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政府は、議会の承認を得なくても国民の生活を統制できる。</li> <li>・政府は、戦争を進めるうえで必要なものや必要な人を強制的にもっていくことができる。</li> </ul>	<p>○国家総動員法の内容をわかりやすくまとめたものを用意し、国が戦時体制を強めていき、反対できなかったことについて理解できるようにする。</p>	国家総動員法
5	<p>8 本時の学習のまとめをし、感想を書く。</p> <div data-bbox="325 1458 1241 1559" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>国が戦時体制を強めていき、社会全体が戦争ムードになっていたため、反対できなかった。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いやなことに反対できない社会になってほしくない。</li> <li>・すべてが戦争一色の社会なんて嫌だ。</li> <li>・苦しい生活を我慢しなければならないから、戦争はしたくない。</li> </ul>	<p>○今と戦時中の社会の様子を比較して感想を書くよう伝える。</p>	